

2. 区別分野別状況

	第1章 区別の人口の状況	第2章 区別の世帯の状況	第3章 区別の住宅の状況	第4章 区別の産業、建築の状況	第6章 区別の医療、福祉の状況	第7章 区別の防災・防犯、環境の状況
北区	平成22年の国勢調査人口は約11万人と市内では中位に位置し、平成17年から平成22年の5年間で人口が比較的大きく増加している。市外からの通勤者による就業者が多く、また市外からの転入も多い。外国人登録は平成15年から24年までの間に中国籍を中心に増加している。	平成22年の一般世帯数は約6.5万世帯とやや多く、一世帯あたり人員は1.67人と少ない。過去30年間で一般世帯数は倍近くと大きく増加している。1人世帯が半数以上を占め単独世帯が多い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに1割未満と低い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は低い。持ち家の比率はやや低く、過去10年間の新設住宅着工面積は特に大きい。空家率は低い。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が高い。	事業所数は24区で2番目に多い。卸売業、小売業の事業所数も多く、売上金額も大きい。卸売業、小売業1事業所あたり売上金額は24区で最も大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積ともに最も大きい。平成24年の5階以上の建築物数も多い。	住宅から最寄りの医療機関、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。人口千人あたりの病床数、人口千人あたりの医師数は特に多い。	火災件数はやや多いが災害人員は少ない。想定帰宅困難者数が特に多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。街頭犯罪者数は多いが、前年度に比較して大きく減少している。人口一人あたり公園面積は比較的大きく、公園との距離も近い住宅の割合が高いなど緑に接する機会が多い環境にある区である。普通ごみ収集量、人口千人あたりの普通ごみ収集量ともに平均的である。
都島区	平成22年の国勢調査人口は約10万人と市内では中位に位置し、近年の人口はほぼ横ばいで今後人口減少が進むとされている。自然増減・社会増減・高齢化率・就業者数などいずれも中位であり、完全失業率の増加がやや大きい。	平成22年の一般世帯数は約5.0万世帯、一世帯あたり人員は2.01人と平均的である。過去30年間での変化や核家族世帯数、単独世帯数、高齢者世帯数の一般世帯数に対する割合はいずれも平均的である。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が2割弱、木造率も2割程度と平均的である。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや低い。空家率は低い。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が低い。	事業所数はやや少ない。製造業、卸売業、小売業ともに売上金額が小さい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積はやや小さく、一棟あたりの建築着工床面積は平均的である。平成24年の5階以上の建築物数は平均的である。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合はやや高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。人口千人あたりの病床数は多い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積は平均的で、公園との距離が近い住宅の割合はやや低いなど緑に接する機会がやや少ない環境にある区である。普通ごみ収集量、人口千人あたりの普通ごみ収集量ともに平均的である。
福島区	平成22年の国勢調査人口は約6.7万人と市内では下位に位置するが、自然増・社会増により近年は比較的大きく増加している。高齢化率が比較的低く、子どもの転入転出も比較的少ない。外国人登録者数は下位に位置する。	平成22年の一般世帯数は約3.4万世帯と少なく、一世帯あたり人員は1.94人と平均的である。高齢者世帯数の一般世帯数に対する割合はやや低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が2割程度、木造率は2割弱と平均的である。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は低い。過去10年間の新設住宅着工面積はやや大きい。空家率は平均的。	事業所数はやや少ない。製造業、卸売業、小売業ともに売上金額が小さいが、卸売業、小売業1事業所あたりの売上金額は大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積はやや大きい。平成24年の5階以上の建築物数は平均的である。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は平均的であり、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや高い。人口千人あたりの病床数は多い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積は平均的で、公園との距離が近い住宅の割合が高いなど緑に接する機会がやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量、人口千人あたりの普通ごみ収集量ともに平均的である。
此花区	平成22年の国勢調査人口は約6.5万人と市内では下位に位置し、昭和55年からの30年間で見ると人口は大きく減少しているが、平成17年からの5年間は若干増加している。ただし平成52年人口推計では大きく減少となっている。転入・転出ともに少ないが、死亡率がやや高いため自然減少となっている。外国人登録者数は下位となっている。	平成22年の一般世帯数は約2.9万世帯と最も少なく、一世帯あたり人員は2.21人とやや多い。核家族世帯数の一般世帯数に対する割合が高い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに3割弱とやや高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は高い。過去10年間の新設住宅着工面積はやや小さい。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が低い。	事業所数は少ない。製造業の売上金額が大きく、製造業1事業所あたりの売上金額は24区の中で突出して大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積はやや大きく、一棟あたりの建築着工床面積はやや大きい。平成24年の5階以上の建築物数は少ない。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合はやや低く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや高い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積、公園との距離が近い住宅の割合ともに平均的で、緑に接する機会は標準的な環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的であるが、人口千人あたりの普通ごみ収集量は多い。
中央区	平成22年の国勢調査人口は約7.8万人と市内では下位に位置し、平成17年から平成22年の5年間で人口がとくに大きく増加している。高齢化率は低いが、年少人口の減少により急速に高齢化が進むと推計されている。女性の労働力率は高い。市外からの通勤による就業者が多く、市外からの転入も多い。外国人登録者数が中国籍を中心に最も増加している。	平成22年の一般世帯数は約4.9万世帯と平均的で、一世帯あたり人員は1.60人と少ない。単独世帯数の一般世帯数に対する割合が高く、核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合はいずれも低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに1割未満と低い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は低い。持ち家の比率は低く、過去10年間の新設住宅着工面積は特に大きい。一住宅あたりの延べ面積も小さい。空家率は平均的。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合がやや高い。	事業所数は24区で最も多い。製造業の売上金額も大きい。卸売業、小売業の売上金額は24区の中で突出して大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積ともに大きい。平成24年の5階以上の建築物数は最も多い。	住宅から最寄りの医療機関、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は特に低い。人口千人あたりの医師数は特に多い。	火災件数、災害人員ともやや多い。想定帰宅困難者数が特に多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が低い。上町断層帯地震による全半壊棟数は平均的であるが、死者数は24区で最も多い。街頭犯罪者数が特に多いが、前年度に比較して減少している。人口一人あたり公園面積は特に大きい。公園との距離が近い住宅の割合が低く、緑に接する機会はやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量、人口千人あたりの普通ごみ収集量はやや少ない。

	第1章 区別の人口の状況	第2章 区別の世帯の状況	第3章 区別の住宅の状況	第4章 区別の産業、建築の状況	第6章 区別の医療、福祉の状況	第7章 区別の防災・防犯、環境の状況
西区	平成22年の国勢調査人口は約8.3万人と市内では下位に位置し、近年人口が大きく増加している。高齢化率が低いほか、出生率が高く死亡率が低い。自然増加が大きい。昼間人口や就業者数、市外からの通勤者が多く、市外からの転入も多い。	平成22年の一般世帯数は約4.7万世帯と平均的で、一世帯あたり人員は1.75人と少ない。過去30年間で一般世帯数は倍近くと大きく増加している。単独世帯数の一般世帯数に対する割合が高く、核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合はいずれも低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに1割未満と低い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は低い。過去10年間の新設住宅着工面積は大きい。空家率はやや高い。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が高い。	事業所数は多い。卸売業、小売業の売上金額が大きく、卸売業、小売業1事業所あたりの売上金額も24区で3番目に大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積ともに大きい。平成24年の5階以上の建築物数は多い。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は最も高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや低い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が特に高い。人口一人あたり公園面積は平均的で公園との距離が近い住宅の割合が非常に高く、緑に接する機会は多い環境にある区である。普通ごみ収集量、人口千人あたりの普通ごみ収集量はやや少ない。
港区	平成22年の国勢調査人口は約8.4万人と市内では下位に位置し、過去30年間では減少しているものの、最近5年間では横ばいから微増傾向にある。高齢化率は比較的高く、将来推計においては他区よりやや低くなっている。就業者、自営業者、役員、家族従業者などは少なく、市外からの通勤者も少ない区である。	平成22年の一般世帯数は約4.0万世帯とやや少なく、一世帯あたり人員は2.06人と平均的である。単独世帯数、核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合はいずれも平均的である。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅は2割強、木造率も2割と平均的である。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は高い。過去10年間の新設住宅着工面積はやや小さい。空家率はやや高い。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が低い。	事業所数は少ない。事業所数の産業別構成比をみると、他区に比べ運輸業、郵便業の割合が高い。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積は平均的である。平成24年の5階以上の建築物数はやや少ない。	住宅から最寄りの医療機関、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は高い。	火災件数は少ないが、り災人員はやや多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が特に高い。人口一人あたり公園面積は平均的で、公園との距離が近い住宅の割合が非常に高く、緑に接する機会は多い環境にある区である。普通ごみ収集量、人口千人あたりの普通ごみ収集量ともに平均的である。
大正区	平成22年の国勢調査人口は約7.0万人と市内では下位に位置し、自然減・社会減により人口が減少している。高齢化率は高く、将来推計においても他区より高い。市外からの通勤者も少なく、昼夜間就業者比率は低い。外国人登録者数は最も少ない。	平成22年の一般世帯数は約3.1万世帯と少なく、一世帯あたり人員は2.24人と多い。核家族世帯数、高齢者世帯数などの一般世帯数に対する割合は高く、単独世帯数の一般世帯数に対する割合は低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅は3割強、木造率も3割と高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は最も高い。過去10年間の新設住宅着工面積はやや大きい。一住宅あたりの延べ面積は大きい。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が低い。	事業所数は少ない。製造業の売上金額が大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積ともに小さい。平成24年の5階以上の建築物数は少ない。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや低い。要介護認定者数の割合は高い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が特に低い。人口一人あたり公園面積はやや大きく、公園との距離が近い住宅の割合は平均的で、緑に接する機会は多い環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的であるが、人口千人あたりの普通ごみ収集量は多い。
天王寺区	平成22年の国勢調査人口は約6.9万人と市内では下位に位置しているが、自然増・社会増により人口は増加している。高齢化率は比較的低く、将来推計においても他区より低い。完全失業率は低い。就業者・雇用者ともに少なく市外からの通勤者も少ない。	平成22年の一般世帯数は約3.5万世帯と少なく、一世帯あたり人員は1.98人と平均的である。高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合は低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに2割弱とやや低い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや低い。過去10年間の新設住宅着工面積は最も小さい。一住宅あたりの延べ面積は大きい。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が高い。	事業所数はやや少ない。事業所数の産業別構成比をみると、他区に比べ教育、学習支援業の割合が高い。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積はやや大きい。平成24年の5階以上の建築物数もやや多い。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや低い。人口千人あたりの病床数、人口千人あたりの医師数は特に多い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積は大きく、公園との距離が近い住宅の割合はやや高いなど、緑に接する機会は多い環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的である。
浪速区	平成22年の国勢調査人口は約6.1万人と市内では最も少ない。自然減であるが社会増により人口は増加している。高齢化率は低い。男女とも生涯未婚率が高い。昼夜間人口比率はやや高く、完全失業率が高い。外国人登録者数は比較的多く、中国籍を中心に登録数が特に増加している。	平成22年の一般世帯数は約4.2万世帯とやや少なく、一世帯あたり人員は1.44人と最も少ない。単身世帯数の一般世帯数に対する割合は最も高く、核家族世帯数、高齢者世帯数の一般世帯数に対する割合は低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに1割未満で24区で最も低い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は低い。一住宅あたりの延べ面積は小さい。駅までの距離が近い住宅の割合が高い。	事業所数はやや少ない。事業所数の産業別構成比をみると、他区に比べ卸売業、小売業の割合が高い。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積は大きい。平成24年の5階以上の建築物数はやや多い。	住宅から最寄りの医療機関、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや低い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合がやや低い。人口一人あたり公園面積は平均的で、公園との距離が近い住宅の割合はやや低く、緑に接する機会はやや少ない環境にある区である。普通ごみ収集量は少なく、人口千人あたりの普通ごみ収集量は特に少ない。

	第1章 区別の人口の状況	第2章 区別の世帯の状況	第3章 区別の住宅の状況	第4章 区別の産業、建築の状況	第6章 区別の医療、福祉の状況	第7章 区別の防災・防犯、環境の状況
西淀川区	平成22年の国勢調査人口は約9.8万人と市内では中位に位置している。人口はほぼ横ばいであり、高齢化率は中位に位置する。昼夜間人口比率はほぼ100で、就業者・雇用者も中位であるが市外からの通勤者は少ない。外国人登録者数も中位であるが、韓国及び朝鮮籍が減少し中国籍が増加している。	平成22年の一般世帯数は約4.4万世帯とやや少なく、一世帯あたり人員は2.22人とやや多い。核家族世帯数の一般世帯数に対する割合は高く、単独世帯数の一般世帯数に対する割合は低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が3割弱、木造率は3割と高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや低い。一住宅あたりの延べ面積は大きい。	事業所数は少ない。製造業の売上金額が大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積は平均的である。平成24年の5階以上の建築物数は少ない。	住宅から最寄りの医療機関、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が低い。人口一人あたり公園面積、公園との距離が近い住宅の割合ともに平均的で、緑に接する機会は標準的な環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的であるが、人口千人あたりの普通ごみ収集量は多い。
淀川区	平成22年の国勢調査人口は約17万人と市内では上位に位置している。人口はほぼ横ばいであり、高齢化率、子どもの割合とも中位である。昼夜間人口比率は100を超えている。また、市外からの転入転出が多いほか、子どもの転出も多くなっている。就業者数・雇用者数も多く、区内通勤者が多いが、完全失業率がやや高い。	平成22年の一般世帯数は約9.1万世帯と多く、一世帯あたり人員は1.87人と平均的である。単独世帯数の一般世帯数に対する割合はやや高く、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合はやや低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が2割弱とやや低く、木造率は2割と平均的である。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや低い。過去10年間の新設住宅着工面積は大きい。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合がやや低い。	事業所数は多い。製造業の売上金額が24区の中で突出して大きく、製造業1事業所あたりの売上金額も大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は大きく、一棟あたりの建築着工床面積は平均的。平成24年の5階以上の建築物数は多い。	住宅から最寄りの医療機関、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。	火災件数は多く、り災人員もやや多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合がやや高い。東南海・南海地震による全半壊棟数、死者数ともに24区で最も多い。人口一人あたり公園面積、公園との距離が近い住宅の割合ともに平均的で、緑に接する機会は標準的な環境にある区である。普通ごみ収集量は多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量は平均的である。
東淀川区	平成22年の国勢調査人口は約18万人と市内では上位に位置している。人口は近年は横ばいから微減である。高齢化率は中位である。市外からの転入・転出ともに多いが増減はあまり無く、子どもの転出が多くなっている。就業者数・雇用者数、自営業者ともに多い。	平成22年の一般世帯数は約9.2万世帯と最も多く、一世帯あたり人員は1.91人と平均的である。単独世帯数の一般世帯数に対する割合はやや高く、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合はやや低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅は2割弱とやや低く、木造率は2割と平均的である。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は平均的である。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合がやや低い。	事業所数はやや少ない。製造業の売上金額は平均的であるが、製造業1事業所あたりの売上金額は大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積は小さい。平成24年の5階以上の建築物数はやや多い。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は平均的で、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや高い。	火災件数、り災人員ともやや多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積はやや小さく、公園との距離が近い住宅の割合が高いなど、緑に接する機会はやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量は多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量も平均的である。
東成区	平成22年の国勢調査人口は約8.0万人と市内では下位に位置している。昭和55年からの30年間で見ると人口は減少しているが、近年は横ばい状態にある。高齢化率は中位である。昼夜間人口比率はほぼ100である。就業者数・雇用者数は少なく、外国人登録者数はやや多いが、韓国及び朝鮮籍が比較的大きく減少している。	平成22年の一般世帯数は約3.9万世帯と少なく、一世帯あたり人員は2.04人と平均的である。単独世帯数、核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合はいずれも平均的である。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに3割強とやや高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は平均的である。一住宅あたりの延べ面積は大きい。駅までの距離が近い住宅の割合がやや高く、銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が高い。	事業所数はやや少ない。製造業の事業所数は多いが、売上金額は平均的。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積ともに小さい。平成24年の5階以上の建築物数はやや少ない。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積は小さく、公園との距離が近い住宅の割合が平均的で、緑に接する機会はやや少ない環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的で、人口千人あたりの普通ごみ収集量も平均的である。
生野区	平成22年の国勢調査人口は約14万人と市内では中位に位置している。昭和55年からの30年間で見ると人口減少の割合が高い。高齢化率はやや高い。昼夜間人口比率はほぼ100である。自営業者数、家族従業者数が多いが、完全失業率もやや高い。外国人登録者数がとくに多い区であるが、韓国及び朝鮮籍は減少しつつある。	平成22年の一般世帯数は約6.3万世帯とやや多く、一世帯あたり人員は2.10人と平均的である。高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合がやや高い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が3割強と高く、木造率も5割と最も高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合も高い。空家率は最も高く、一住宅あたりの延べ面積も最も大きい。駅までの距離が近い住宅の割合がやや低い。	事業所数は平均的。製造業の事業所数は24区で最も多いが売上金額は平均的。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積はやや小さく、一棟あたりの建築着工床面積は小さい。平成24年の5階以上の建築物数はやや少ない。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや低い。要介護認定者数の割合は高い。	火災件数は多く、り災人員は特に多い。地震による想定全半壊頭数が特に多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合がやや高い。人口一人あたり公園面積はやや小さいが、公園との距離が近い住宅の割合は高く、緑に接する機会はやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量はやや多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量も多い。

	第1章 区別の人口の状況	第2章 区別の世帯の状況	第3章 区別の住宅の状況	第4章 区別の産業、建築の状況	第6章 区別の医療、福祉の状況	第7章 区別の防災・防犯、環境の状況
旭区	平成22年の国勢調査人口は約9.2万人と市内では中位に位置している。昭和55年からの30年間で見ると人口は減少している。高齢化率は比較的高く、将来推計ではさらに高くなる。昼夜間人口比率は100弱である。就業者数・雇用者数が少なく、市外からの通勤者も少ない。	平成22年の一般世帯数は約4.4万世帯とやや少なく、一世帯あたり人員は2.08人と平均的である。核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合がやや高い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに3割強とやや高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は高い。一住宅あたりの延べ面積は大きい。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合はやや低い。	事業所数は少ない。事業所数の産業別構成比をみると、他区に比べ医療、福祉の割合が高い。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積ともに小さい。平成24年の5階以上の建築物数は少ない。	住宅から最寄りの医療機関、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は高い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積は平均的で、公園との距離が近い住宅の割合はやや高く、緑に接する機会はやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的で、人口千人あたりの普通ごみ収集量は多い。
城東区	平成22年の国勢調査人口は約16万人と市内では上位に位置している。人口は増加傾向を続けている。高齢化率はやや高い。昼夜間人口比率は90台であり、昼間人口が少ない区である。子どもの転出がやや多い。就業者・雇用者が多く、自区内通勤者も多い区である。	平成22年の一般世帯数は約7.6万世帯と多く、一世帯あたり人員は2.16人とやや多い。核家族世帯数の一般世帯数に対する割合が高く、単独世帯数の一般世帯数に対する割合がやや低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が2割強、木造率も3割弱とやや高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は高い。過去10年間の新設住宅着工面積は大きい。空家率は高い。駅までの距離が近い住宅の割合がやや低く、銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が低い。	事業所数はやや少ない。製造業の事業所数は多いが、売上金額は小さい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積はやや小さい。平成24年の5階以上の建築物数は平均的。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が高い。人口一人あたり公園面積は小さく、公園との距離が近い住宅の割合は平均的で、緑に接する機会はやや少ない環境にある区である。普通ごみ収集量は多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量も多い。
鶴見区	平成22年の国勢調査人口は約11万人と市内では中位に位置している。出生率が高く自然増が多いことから人口は増加傾向を続けている。高齢化率は低く、子どもの割合が高い。昼夜間人口比率は90弱であり、昼間人口が少ない。市外からの通勤者も少ない。外国人登録者数も少ない。	平成22年の一般世帯数は約4.5万世帯とやや少なく、一世帯あたり人員は2.44人と最も多い。核家族世帯数の一般世帯数に対する割合も最も高く、単独世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合がやや低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに3割弱とやや高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや低い。過去10年間の新設住宅着工面積は大きい。一住宅あたりの延べ面積は大きい。駅までの距離が近い住宅の割合が低く、銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合がやや低い。	事業所数は少ない。事業所数の産業別構成比をみると、他区に比べ医療、福祉の割合が高い。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積はやや小さい。平成24年の5階以上の建築物数は少ない。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は低く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は高い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が平均的である。人口一人あたり公園面積は非常に大きく、公園との距離が近い住宅の割合は平均的で、緑に接する機会はやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的で、人口千人あたりの普通ごみ収集量は多い。
阿倍野区	平成22年の国勢調査人口は約11万人と市内では中位に位置している。子どもについては転入が転出を上回るなど社会増がやや多いが、人口は減少傾向である。高齢化率はやや高い。昼夜間人口比率は100強である。役員数が多い。	平成22年の一般世帯数は約4.9万世帯とやや少なく、一世帯あたり人員は2.12人とやや多い。核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合がやや高く、単独世帯数の一般世帯数に対する割合がやや低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに3割強とやや高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや高い。一住宅あたりの延べ面積は大きい。駅までの距離が近い住宅の割合がやや高く、銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合が高い。	事業所数はやや少ない。事業所数の産業別構成比をみると、他区に比べ製造業の割合が低い。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積は平均的である。平成24年の5階以上の建築物数も平均的である。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は平均的で、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合はやや高い。要介護認定者数の割合は高い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合がやや高い。人口一人あたり公園面積は小さいほか、公園との距離が近い住宅の割合は特に低く、緑に接する機会は非常に少ない環境にある区である。普通ごみ収集量はやや多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量は多い。
住之江区	平成22年の国勢調査人口は約13万人と市内では中位に位置している。人口は昭和55年からの30年間増加していたが、近年は減少傾向である。高齢化率はやや高く、将来推計ではさらに高くなる。昼夜間人口比率は100強である。自区内通勤者数がやや多い。	平成22年の一般世帯数は約5.7万世帯と平均的で、一世帯あたり人員は2.22人とやや多い。核家族世帯数、高齢者世帯数の一般世帯数に対する割合が高く、単独世帯数の一般世帯数に対する割合が低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が2割弱とやや低く、木造率は2割と平均的である。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや高い。	事業所数はやや少ない。製造業の売上金額は平均的であるが、1事業所あたりの売上金額は大きい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積、一棟あたりの建築着工床面積ともにやや大きい。平成24年の5階以上の建築物数はやや少ない。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は最も低く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は低い。	最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。人口一人あたり公園面積はやや大きく、公園との距離が近い住宅の割合は高いなど、緑に接する機会は多い環境にある区である。普通ごみ収集量はやや多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量は平均的である。

	第1章 区別の人口の状況	第2章 区別の世帯の状況	第3章 区別の住宅の状況	第4章 区別の産業、建築の状況	第6章 区別の医療、福祉の状況	第7章 区別の防災・防犯、環境の状況
住吉区	平成22年の国勢調査人口は約16万人と市内では上位に位置している。昭和55年からの過去30年間をみると人口は減少傾向である。高齢化率はやや高く、将来推計ではさらに高くなる。昼夜間人口比率は100弱である。就業者・雇業者とも多いが、市外からの通勤者数は少ない。	平成22年の一般世帯数は約7.4万世帯と多く、一世帯あたり人員は2.07人と平均的である。核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合がやや高い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が2割以上とやや高く、木造率も3割強とやや高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや高い。	事業所数はやや少ない。事業所数の産業別構成比をみると、他区に比べ医療、福祉の割合が高い。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積は小さい。平成24年の5階以上の建築物数は平均的。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は高い。要介護認定者数の割合はやや高い。	火災件数はやや多く、り災人員は多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。街頭犯罪者数が多いが、前年度に比較して減少している。人口一人あたり公園面積は小さく、公園との距離が近い住宅の割合は低いなど、緑に接する機会が少ない環境にある区である。普通ごみ収集量は多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量も平均的である。
東住吉区	平成22年の国勢調査人口は約13万人と市内では中位に位置している。人口は過去30年間減少傾向にある。高齢化率はやや高く、将来推計ではさらに高くなる。昼夜間人口比率は100弱である。家族従業者数がやや多く、市外からの通勤者数は少ない。	平成22年の一般世帯数は約6.0万世帯、一世帯あたり人員は2.15人とやや多い。核家族世帯数、高齢者世帯数、高齢単身世帯数の一般世帯数に対する割合がやや高い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が4割弱と24区で最も高く、木造率も4割強と高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや高い。一住宅あたりの延べ面積は大きい。	事業所数はやや少ない。製造業の事業所数は多いが、売上金額は小さい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積は平均的で、一棟あたりの建築着工床面積は小さい。平成24年の5階以上の建築物数はやや少ない。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合はやや高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は高い。要介護認定者数の割合も高い。	上町断層帯地震による想定全半壊棟数が多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。人口一人あたり公園面積は大きく、公園との距離が近い住宅の割合は平均的で、緑に接する機会はやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量は多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量も多い。
平野区	平成22年の国勢調査人口は約20万人と市内では最も多い。人口は過去30年間横ばい傾向である。高齢化率は中位であるが、子どもの割合は比較的高い。昼夜間人口比率は100弱である。自営業者数が最も多く、家族従業者数、自区内通勤者数も多い。外国人登録者数も比較的多いが、近年は韓国及び朝鮮籍が減少している。	平成22年の一般世帯数は約8.6万世帯と多く、一世帯あたり人員は2.29人と多い。核家族世帯数、高齢者世帯数の一般世帯数に対する割合が高く、単独世帯数の一般世帯数に対する割合が低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅、木造率ともに2割強と平均的である。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合はやや高い。過去10年間の新設住宅着工面積は大きい。駅までの距離が近い住宅の割合が低く、銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合がやや低い。	事業所数は平均的。製造業の事業所数は24区で最も多いが、売上金額はやや大きい程度である。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積はやや大きく、一棟あたりの建築着工床面積は小さい。平成24年の5階以上の建築物数は平均的。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合はやや低く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は低い。	火災件数はやや多く、り災人員は多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合は平均的である。街頭犯罪者数が突出して多く、前年度に比較して増加している。人口一人あたり公園面積は小さく、公園との距離が近い住宅の割合は平均的で、緑に接する機会はやや少ない環境にある区である。普通ごみ収集量は特に多く、人口千人あたりの普通ごみ収集量も多い。
西成区	平成22年の国勢調査人口は約12万人と中位に位置する。昭和55年からの人口減少がとくに大きい。高齢化率は最も高く、さらに急激に高齢化すると推計されている。昼夜間人口比率は100強である。出生率が低く、死亡率、完全失業率がとくに高い。平均寿命も低く、特に男性の平均寿命は極めて低い。市外からの通勤者数は少ない。外国人登録者数は比較的多いが、近年韓国及び朝鮮籍が減少している。	平成22年の一般世帯数は約6.9万世帯と多く、一世帯あたり人員は1.65人と少ない。高齢者単身世帯の一般世帯数に対する割合が特に多いほか、単独世帯数、高齢者世帯数の一般世帯数に対する割合が高く、核家族世帯数の一般世帯数に対する割合が低い。	平成20年の住宅の建て方では一戸建住宅が2割以上とやや高く、木造率も4割以上と高い。建築時期が昭和55年以前の住宅の割合は高い。一住宅あたりの延べ面積は小さい。駅・銀行郵便局までの距離が近い住宅の割合がやや高い。	事業所数はやや少ない。製造業の事業所数は平均的であるが、売上金額は小さい。平成15年から平成24年の10年間の建築着工床面積はやや小さく、一棟あたりの建築着工床面積は小さい。平成24年の5階以上の建築物数は平均的。	住宅から最寄りの医療機関まで250m未満と近い住宅の割合は高く、老人サービスセンターまで250m未満と近い住宅の割合は最も高い。要介護認定者数の割合は特に高い。	火災件数、り災人員とも特に多い。上町断層帯地震による想定全半壊棟数が多い。最寄りの緊急避難場所まで250m未満と近い住宅の割合が特に低い。人口一人あたり公園面積はやや小さく、公園との距離が近い住宅の割合は高いなど、緑に接する機会はやや多い環境にある区である。普通ごみ収集量は平均的で、人口千人あたりの普通ごみ収集量は平均的である。